

第3回地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）延伸協議会 議事録

日 時：平成30年3月14日（水）18：30～20：00

場 所：下落合コミュニティセンター 多目的ルーム1・2

出席者

【委員】

委員長 久保田 尚：埼玉大学大学院教授 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門

伊 東 誠：（一財）運輸総合研究所 調査事業部 主席研究員

金子 雄一郎：日本大学 理工学部土木工学科 教授

椎 本 隆美：（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構 東京支社
計画部担当部長

瀬 田 史彦：東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授

福 田 大輔：東京工業大学 環境・社会理工学院 土木・環境工学系 准教授

山 下 智史：（株）JTB関東 地域交流グローバルチーム担当マネージャー
観光開発プロデューサー

山 崎 明弘：埼玉県 企画財政部 地域政策局長

岡 崎 繁：さいたま市 都市戦略本部 理事

欠席者

【委員】（敬称略）

吉 田 育代：（株）日本経済研究所 調査本部 上席研究主幹

○議題及び公開又は非公開の別

（議題）

（1）地下鉄7号線延伸とまちづくりの総括について

（公開・非公開の別）

公開

○傍聴者数 4人

○審議した内容

（1）地下鉄7号線延伸とまちづくりの総括について

【注意：論点ごとに整理しているため、実際の議事進行・発言順とは異なる場合があります】

1. 開会

〈事務局〉

本協議会は公表を前提としているため、報道関係者や傍聴者がおりますことを理解して頂きたい。

2. 地下鉄7号線延伸とまちづくりの総括について

〈久保田委員長〉

昨年9月から始まり、分科会で尽力いただいて最後の協議会となる。議題としては総括となるが、資料については事務局より説明していただく。

〈事務局〉

資料の説明。

〈久保田委員長〉

今日は総括しなければいけない。それぞれの分科会で議論を積み上げて頂いているので、補足があれば頂きたい。まず、まちづくり分科会について、p2-14においてどのような人口増加型を想定するのか。岩槻周辺は確実視される開発を入れた。中間駅は500人の定住人口を見込んだ。浦和美園も確実な開発を見込んだ。まちづくり分科会で何か補足があればお願いしたい。

〈瀬田委員〉

p11、p12で将来イメージを書いてもらったが、このようなイメージを持つことが重要。将来的にまちが賑わい、鉄道が育つというイメージを持った上で、鉄道を運営することも大事だが、まちづくりにおいても活動を活発化することが大切である。役所も大事だが市民や民間企業を含むすべての人がイメージを共有し、まちづくりに参加することが重要。

〈伊東委員〉

鉄道分科会について、課題をまとめて頂いた。このような形でいいが、まとめがあって課題があるのが一般的と思う。課題整理にあたり、需要予測上の課題と事業を成立させるための課題に分けるようお願いしたが、まだ混在している。事業制度なども抜けている。もう少し整理が必要。まちづくりを含めて記載しているが、鉄道についての課題、まちづくりについての課題に分ける必要がある。p3-2の定性的評価について、B/Cが評価の中心ではあるが、それ以外の定性的な部分も含めて全体を評価する

というのがマニュアルの考え方である。ほか、書き方として、例えば岩槻の交流人口の増加とあるが、需要予測で一定の増加は見込んでいるので、さらなる増加とするとか。

〈金子委員〉

定性的評価について、まちづくりについても具体的に現状がどうで、延伸によってどう変わっていくのか、そのあたりを書かないといけない。

〈福田委員〉

今の点にさらに重ねて申し上げると、定性的評価の記述が簡単すぎるのが気になる。例えばリダンダンシーについても、どのような代替経路が新たにつくられるのかなど、もっと具体的な記述をした方がよいのではないか。今回の協議会ではまちづくりと鉄道の需要予測を中心に議論しており、それらの定性的評価の内容についてはほとんど議論がされておらず付帯的な位置づけにすぎないのではないか。報告書も、まちづくりと鉄道の需要予測の内容の方をもっと前面に出してほしい。

〈久保田委員長〉

本日は最後に総括を述べて頂く。今からの時間は今日の資料についてご意見等いただきたい。

〈伊東委員〉

協議会の中でまちづくりの話をあまり議論していない。今日の資料の中で、この協議会で議論したものはどれかと、協議会、分科会でどの部分を議論したのかが分かるようにしてほしい。あと、細かな話で p2-2 で縦軸と横軸の意味が良くわからない。例えば⑤の開発可能性は目標を達成したが効果があまりないとか。

〈久保田委員長〉

協議会としてまちづくりをどう議論したのかというところを事務局から説明していただきたい。あと⑤グラフの話も。

〈事務局〉

二つめの効果の発現の目標達成の件、⑤を例にあげると、横軸は年度毎に目標設定をしている。縦軸は定住交流人口に寄与したかを表している。まだ検討段階のため、縦軸は未達成、横軸は年度に対する達成度なので検討をしたことで達成という考えである。

〈久保田委員長〉

1 点目についてはいかがか。

〈事務局〉

冒頭でまちづくりの目的について説明したが、市の方で H24 に設定したものに対する評価と鉄道とのリンクに関してところどころ記載をしているが、分かりにくいかもしれない。報告書の目次でいうと 4 番や 5 番の人口減少、8 番のさいたま市東部地域のまちづくりなどで議論した事柄が載ってくる。あとは 12 番のさいたま市東部地域のまちづくりの検討など、ところどころ検討したところが入ってくる。

〈久保田委員長〉

資料 3-8 をご覧いただきたい。H26 では中間駅に人口 4 千人を設定した。今回はあえて人口の設定をしなかった。今回は確実な数値を積み上げて、鉄道分科会に渡したという理解である。

〈福田委員〉

資料 2-11、12 を拝見していて、このようなまちの将来のイメージを描くこと自体は大変結構なことだと思うが、鉄道との連携があまり見えてこないため、何らかの連携を示せるような内容になるとなお良い。中間駅は駅と連携したまちづくりを行うことは自明だが、浦和美園に関しては開発（面積）と駅までのアクセス距離や交通手段との関連性が考えられたり、岩槻に関しても乗換え利便性増による買い物客の増加とまちづくりの関連性などが出てくるのではないだろうか。

次に鉄道の需要予測について、今回の 5 つのケースにおいて、資料には記載がないが混雑緩和便益がかなり発生しているようである。概算では、全体の便益のうち、時間短縮が 4 割、混雑緩和が 4 割、その他が 2 割程度であったと思われる。混雑緩和の効果があることを積極的に押し出して示したらどうか。

〈金子委員〉

資料 1 で例えば混雑率とか利便性向上とか記載があるが、混雑率なら何%になるのか具体的に示すべき。利便性向上についても具体的な記載が必要。

〈久保田委員長〉

アピールの仕方を工夫するという目的だと思う。では総括をお願いします。

〈瀬田委員〉

鉄道を含めたまちづくりへの取り組みは市だけでなく各ステークホルダー全体でや

っていくことを常に心がけることが重要である。

〈山下委員〉

違った観点で話をすると、住みたいまちランキングに 9 位大宮、10 位浦和が入っている。ベスト 30 以内にさいたま新都心 29 位、武蔵浦和や南浦和も 100 位以内で、さいたま市の人気の一つの象徴と思う。これをベースに岩槻が何年後になるかわからないが、住みたいまちと言ってもらえるためにどうあるべきかを考える必要がある。少子化が言われているご時世で都市間競争が激しい中、都市の魅力を発信する必要がある。いろいろなところで子育て支援が打ち出されているおり若いファミリー層を取り込んでいる。岩槻といえば人形、歴史となるが、人形と言えば子供の健やかな育成、健康祈願である。まちづくり分科会で岩槻のブランディングが必要と言われ、先のようなパンフレットも作ってもらった。もう一つ、岩槻から霞ヶ関まで 7 号線が開通すると 53 分乗り換えなしというのは、生活者目線でいうとすごく魅力的。座って通えるというのは魅力である。そういった着眼点での肉づけも必要と思う。

〈椎本委員〉

まちづくりについて、需要予測の前提となる中間駅、岩槻駅周辺の夜間人口、従業員人口等が予測結果に大きく影響する。また、この両駅周辺のまちづくりの進捗状況を踏まえ各事業主体が事業への参画等の判断を行うと考えられることから、市・県が両駅のまちづくりを確実に進めていただきたい。特に、中間駅地区は市街化調整区域、農業振興地域でありすぐに開発ができるわけではないので、しっかりとまちづくりの具体化に取り組んでほしい。

鉄道について、需要予測の前提となる岩槻駅の乗換え、快速運転が予測結果に大きく影響していることから、関係事業者と十分な協議が必要である。B/C の前提となる建設期間等については、報告書の概算建設費に、建設期間は 8 年とした等きちんと記載する必要がある。

今後の展開を見据えた意見としては、今回の結果はいろいろな前提条件を基にした数値なので、このまますぐに使える、事業化できる数値ではない。この結果を基にこれから検討を深度化するにあたり、整備主体、営業主体、国、県等関係者などが同じ方向を向いて進めることが肝要であるので、関係者が集まる場を設け、その中で、各関係者からみた路線整備の意義・必要性の再整理や本路線の事業化に向けた課題の解決・検討をしっかりと実施していくことが重要であると考え。例えば混雑率が数値としてどう変化するか、高齢社会への対応として具体的にどのような効果があるかなどの検討を行うことも必要である。また、概算工事費は、今後実施される地質調査、関係機関との協議、詳細設計、物価変動、特に近年上昇の著しい労務費、工事工程等により変更の可能性があることを認識していただくとともに、仮に工事費が増高した場

合の関係者間のリスク分担について十分協議しておく必要があると考える。

〈山崎委員〉

まちづくりを含めて延伸に向けた方向性がまとまってきたことは良いこと。一方でメインである沿線まちづくりを始め、多くの課題が整理されてきている。したがって、これらの課題に対してしっかり検討していくことが重要だと思う。

〈福田委員〉

鉄道で5つの結果が出ていて、これらを並べて見ると「快速運転をしないと事業性が満たせない」というように読み取れてしまう。そうすると、「快速運転が必須」という議論が先行してしまいかねず、懸念が残る。快速運転によって総便益が増加するということは、(利便性が必ず低下する)各駅停車の列車しか止まらない駅の利用者にとっては便益が減少することになり、不公平さは増大しかねない。分析結果は、慎重かつ丁寧に説明する必要があると考える。

この事業自体が、他の首都圏の鉄道事業と最も違う点は、埼玉スタジアムというイベント施設と直結していることに加え、歴史的に若い美園地区、歴史の長い岩槻地区が新たに結ばれるようになるという点ではないだろうか。首都圏全体からみたユニークさを示していくとよい。

〈金子委員〉

鉄道の役割として、岩槻は観光みたいな話もあるが衰退抑制、中間駅は開発、美園は成長促進となると考える。そういったところに注視する。他路線も参考にしながら今後の展開を具体化することが大事。もう1点、端末交通について、病院を誘致しても駅から遠いと高齢者が歩くのは大変。端末交通も考えた上で路線の検討を進めるべき。

〈伊東委員〉

今回の需要予測は技術的には最先端であるが、快速運転について論理的にはモデルに入っているが、快速運転を導入した事例を予測して予測値と実績値が乖離していないかの確認をすることが必要である。また追い越さない快速運転が利用者にとりどのような効果があるのかについての検討が必要。快速運転でB/C、収支が相当向上している。快速運転に安易に走らないよう、説明をきちんとすることが重要。これから県・市と事業のスケジュールがどうなるのかわからないが、遠からず事業化することを前提に課題を整理して、今後の検討を進める必要がある。まだ勉強が必要なこと、事業化するならしなければいけないことを課題として分けて書いておく。

〈久保田委員長〉

大体皆さんの言われた通り。注文として p3-8 で過去と今回の B/C を掲載して頂いて、三度目の正直で 1 を超えたと捉えられてしまうが、条件付きであることを共通理解することが必要である。少なくともできないという結論にはならなかったが課題もあるというのが一つの総括となる。別の面で言うと、定性的評価がある意味結論に近く、こういうプラスもあるしマイナスもある。ここを具体的に補強してほしい。岩槻の位置付け、発展が市の課題として言われていることから、7号線と結び付けてどう発展させるのかを議論することが重要。浦和美園についてはいくら発展しても延伸線沿線の議論にはならず、本当は中間駅がポイント。中間駅をどうするかがさいたま市の重要事項で、個人の意見に近いが美園と同じ住宅中心のまちづくりをしてもしょうがなく、日本を代表するような自然の中で働くまちとか、浦和美園との関係で中間駅をどうしていくのかが大きなテーマ。可能性も見えたし課題も見えたというのが今回の総括だと思う。

〈岡崎委員〉

改めて鉄道の歴史をみると、岩槻は残念ながら見放されてきた経緯がある。武州鉄道は蓮田市から岩槻区を経由して現在の川口市に至っていたが、都内に向けて荒川を渡れず廃線となったという残念な過去があり、岩槻にとっては 7 号線延伸は悲願である。大宮・浦和が住みやすいまちで上位に食い込んだのは鉄道の利便性によるところが大きいと考える。埼玉高速鉄道沿線のことを調べてみると、旧鳩ヶ谷市は人口 5 万 5～6 千人程度の小さなまちだったが、SR ができて現在までに人口が 1 万人程度増加しているなど、鉄道の効果は非常に大きい。しかし、以前のように大きな開発をして鉄道を呼び込む時代でもない。コンパクトシティでまちの特色を出して鉄道がくる仕掛けを作ることが必要。新しいまちの美園、歴史のまちの岩槻、自然と共生するまちの中間駅とテーマはできた。

〈久保田委員長〉

総括という意義は達成できたと思う。今日の意見を報告書に反映していただきたい。

〈事務局〉

報告書の目次案をお示ししたが、本日の意見を踏まえて本年度中に報告書としてまとめる予定。

〈事務局〉

本日の意見を取りまとめて報告書を作成する。議事録についても作成してご確認いただく。

3. 閉会

○問合せ先 さいたま市 都市戦略本部 東部地域・鉄道戦略部
電話番号 048-829-1871
FAX 048-829-1997